

今年の教区の目標

平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

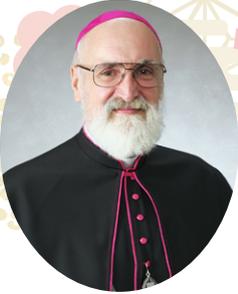
カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年1月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第806号 (1月号)



カトリック那覇教区
ウェイン・バートン司教

2026年新年司教メッセージ

「聖なる平和を求めて」

あけましておめでとうございます。新たな年 2026 年を迎えた今、世界規模のあらゆる危機的な状況があるからこそ、「平和があるように」と祈る主イエスの姿を想いつつ、今年の教区目標とともに特別な祝福を送り、皆様お一人おひとりの平和を祈り求めます。

「平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅」

宣教師として来日間もない頃、日本語を学ぶ中で改めて言葉の奥深さと、そこに込められた思いや、豊かな感性、味わい深い意味などに感心させられました。特に印象深い単語の一つが「平和」です。「平＝平等にすべてのものが、和＝米を口にする(食す)」ことを表していると教わったとき、ある種の衝撃を受けたことを鮮明に覚えています。それは説明のいらない言葉の持つ心打つ力、すべての人に届く普遍的なインパクトだと感じたのです。

皆さんは「平和」をどのように感じ、どのように理解し、どのように求めていますか。

昨年末のクリスマスメッセージでも触れたように、最近の「平和」をめぐる考え方には、大きな隔たりがあり、大変な混乱があるように感じます。そこで、今年一年の那覇教区のテーマとして「平和」を探求し、キリスト者として、その実現を求める生き方を模索することを目標にかかげました。今回はその第一弾として、『平和は聖なるもの』に焦点を当てて、分かち合いたいと思います。そして、今後もこの紙面を使って、リレー方式で教区目標についての多方面からの照らしと導きを皆さんと共有し、深め、実践へと向かえることを希望しております。より具体的に、よきおとずれたる平和への歩みを共に進めて参りましょう。

— イエスが残した平和 —

さて、私たちの信仰生活の中心である聖書には、数多くの「平和」という単語が見いだされます。中でも福音そのものであるイエス様の口から発された「平和」は、特別な意味を持ち、汲み尽くせない神秘性を帯びています。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。」(ヨハネ 14・27) 幾度となくミサの中に響く聴き慣れた言葉ですが、それには「わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。」(同)という言葉が続いています。

イエス様の示す「平和」は、はっきりとこの世が実現し、もたらすものではないことを断言しているのです。このことは「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。」(マタ 10・3-4) との全く逆の発言を合わせて読み解くと、より明確になります。

イエス様の与える「平和」は、イエスご自身のうちに実現している揺るがない平和であり、神ご自身が創造のときに与えた、すべての存在の源である「ある＝存在の溢れ出」との一致のうちにある完全無欠な満たしの状態なのでしょう。ですからその「平和」は、私たちが思う「無病息災」や「無事」という平穏な様子とか、単に争いや戦争のない状態といった表面的な事象ではなく、存在の根源的な満たしがもたらす実り、果実としての「平和」なのでしょう。そのような存在の深み、自分を与え尽くす愛そのものに根差した「平和」は、主イエスとその生き方を通してのみ与え得るものであり、その死と復活によって実現された永遠のいのちのうちにある「平和」なのです。そこからもたらされる真の地上の平和を預言者イザヤは次のように表現しています。

— 聖なる平和 —

「狼は子羊と共に宿り 豹は子ヤギと共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち 小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ その子らは共に伏し獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ 幼子は蝮の巣に手を入れる。」(イザヤ 11・6-8)

(2 頁へ続く)

この預言者の語った「平和の様子」は単なる夢物語ではないと信じます。もし神による完全なる満たしの状態となるなら、誰も何が何物をも必要とせず、争うことも、奪い合うことも、他者を傷つけることも、傷つけられることもない世界が現実となると信じます。人間の同士のことに留まらず、人間と自然、環境、宇宙全体、被造界全体に及ぶ愛の摂理の実現と完全なる調和がもたらされると語っているのだと思うのです。

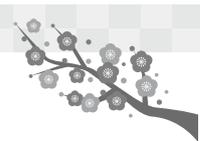
主イエスはその生と死をかけて残した「平和」。十字架の死と復活を通して示し、与えた「平和」。その与え方を見つめ、それに倣って、これを受け取り、分かち合っていきたいと思えます。「平和」を霊の視点から見つめ、その源を探し求め、福音が示す手法で実践するなら、必ずや決して揺るがない『聖なる平和』を完全に享受することができると信じ、そのような視点から「平和」を考えてみましょう。そうするならば、ことの大小や優劣に囚われないより自由で、一人ひとりの日常に根差した『平和は聖なるもの』であるとする歩みが見いだせると思えます。

— これからも —

大戦後の沖縄の平和希求の歩みは、本当に福音的だと感じます。大いなる痛みを負いつつも、決して卑屈にならず、誰をも恨むことなく、それでいて怯むことなく、非暴力をつらぬいて来たこの民衆の姿は、主イエスの歩みを彷彿とさせます。誰かに平和を要求するのではなく、自らが平和の担い手として、その内なる部分でも、自分の周りに対しても愛と平和を実践し、分かち合っています。「平和」を口にしながら、激しい批判や非難による言葉の暴力に訴えることなく、また、正義のこぶしを振りかざし威圧的に制裁を加えようともせず、毅然とした態度で、自分自身に対しても、他者に対しても、正しく誠実に平和と人権を求めてきました。そのどんな小さな行動をも神様はけっして見逃さず、これを用いて主イエスがもたらした『聖なる平和』をすべての存在に行き渡らせることでしょう。さあ、また始めましょう 地上の平和を聖なるものとするために。



2026 New Year's Message Bp. Wayne Berndt "THINKING OF PEACE AS HOLY"



Happy New Year! As we enter the New Year of 2026, I can still easily recall the image of Pope Leo XIV coming out onto the balcony of the Vatican right after his election and saying his first words as the new pope: "Peace be with you all." Our two Japanese Cardinals who were present at the Conclave fondly remember these first words of the new pope and the tremendous and joyful response of the crowds who were waiting in St. Peter's Square. The new pope had given a name to the deepest desire of the whole world; namely, the desire for peace.

Considering these words of Pope Leo at the time of his election, and because of the words that he has spoken about peace on other occasions as his papacy has unfolded, I along with the Presbyteral Council of Naha Diocese, have decided on the following words for our diocesan motto for 2026. This motto is a composite of words about peace that the Holy Father has spoken on several different occasions.

"Peace is Holy, the Will of God, and a Constant Journey of Reconciliation"

Since I will not be able to comment on the whole motto in detail here, it is my hope that in the upcoming editions of the diocesan newspaper, that the depth of the meaning of the motto will be explored in more detail. For now, I would like to speak briefly about the first part: "Peace is Holy."

In the Scriptures, Jesus Christ embodies peace. In John 14:27, Jesus said, "Peace I leave with you; My peace I give to you." Furthermore, Jesus taught us to follow his example when he said: "Blessed are the peacemakers, for they will be called sons (and daughters) of God" (Matthew 5:9).

In the Scriptures, Jesus Christ also embodies holiness. In 1 Peter 1:15-16 exhorts, "But just as he who called you is holy, so be holy in all you do, for it is written: 'Be holy, because I am holy.'"

Peace and holiness are deeply interconnected. In Hebrews 12:14, St Paul emphasizes the necessity of both peace and holiness: "Pursue peace with everyone, as well as holiness, without which no one will see the Lord." Peace is both a gift from God and a fruit of a holy life, while holiness is the pathway to experiencing the fullness of God's peace. Together, they form the foundation of a life that reflects God's character and fulfills His purposes. For this reason, Pope Leo has clearly stated that: "Peace is Holy."

Have a very Happy New Year! Echoing the words of Pope Leo, during the coming year, may "Peace be with you all."

2025年12月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2025年12月2日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

開式の祈り、司会はマイケル神父が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(11月会議)の報告を新田が行い、承認された。・出張、休暇、研修等の不在予定の報告は特になかった。
- ・日韓司教の交流会についてウェイン司教から報告が行われた。毎年、日韓持ち回りで行われている交流会が、今年は広島で開催され、日韓に横たわる様々な課題や開催地の歴史・文化等について学び、交流が行われたことが報告された。来年は韓国で開催される。
- ・小祿教会で行われた久保田助祭の追悼ミサについて、主任のマキシム神父から報告と感謝が述べられた。また、司教からは、今回は諸般の事情により教区葬を執り行えなかったが、基本的には、教区で働く司祭や助祭のためには教区葬を執り行う意向であることが述べられた。
- ・カリタス沖縄のチャリティーコンサートについて、担当のマーシーさんから160名余の方々に参加して盛会となったことが報告され、多くの寄付金へのお礼が述べられた。また、カリタス沖縄については、カリタスジャパンの下部組織ではなく、同じカリタス(慈愛)の精神で具体的な支援活動を実施するグループでありながら、それぞれが独立し、独自の活動をしていることが強調された。カリタス沖縄是那覇教区内のひとつの活動体として組織運営されており、今回の寄付金はその活動資金に充てられる。今後も教会内外にとらわれず多くの人の協力を得ながら、環境や慈善等の様々な活動を展開し、更に盛り上げていきたいとの抱負が語られ、継続的な教区全体の支援・協力が要請された。
- ・その他、ウェイン司教から、那覇教区で働きたいとの希望が複数の司祭等から寄せられていることが報告された。すぐに受け入れるということではないが、直接会って相互理解を深めながら、互いに受け容れあうことが出来るかを識別してゆく意向であることが伝えられ、この件については、押川名誉司教をはじめ司祭の皆さんに協力してもらいたいとの意向が示された。
- ・マキシム神父より、12月14日(日) 17:00から小祿教会を会場に県民クリスマスが開催されるので、大勢の参加が呼びかけられた。
- ・ブイ神父から、12月27日(土)に、安里教会を会場に、那覇教区の子どものためのクリスマスパーティーを行うので、子どもたちに呼びかけを行うよう司祭たちに要請が行われた。
- ・マイケル神父から、聖年の閉幕ミサが12月28日の午後3時から、名護教会で行われるので、距離的には遠いが、沢山の皆さんの参加を呼び掛けて下さるよう要請が行われた。
- ・年明けの1月18日(日)にキリスト教一致祈禱集会が行われるので、司祭たちも参加されるよう担当のクレーバー神父から要請が行われた。
- ・12月2日～3日、安里教会の談話室を使って、菊地枢機卿を座長とするシノドス特別チームの会議が開かれることが報告された。

2. 審議事項

- ・来年2月11日の教区の日についての実施要項が提示され、ボスコ神父から説明がなされた。舞台の横断幕や祝賀会のプログラムについては修正が提案され、了承された。期限とされた本日までの各小教区からの祝い年の該当者の申告が与那原教会からの1件しかないことも報告され、一週間後の9日までに再度、該当者の有無を確認し、報告するよう要請がなされた。
- ・教区報「南の光明」について、最近、諸般の事情により担当者1人で発行作業に携わることとなっており、継続が難しくなっていることが報告された。今後は紙媒体だけでなく、インターネットの活用も視野に、次世代へのバトンタッチを進められるよう要請が行われた。
- ・2026年の教区目標について、ウェイン司教から提案がなされた。新たな目標を「平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅」とすることが了承され、教区報の新年号にウェイン司教の新年メッセージによる解説が掲載されるが、前回会議で提案されたように今後も引き続きこの目標について深めるための記事を掲載するよう、司祭への協力が要請された。
- ・教区事務局長の津波古さんから、2025年教会現勢報告について、報告の責任者は各主任司祭であり、小教区内のすべての施設の報告書を取りまとめて、期日までに提出するよう指示がなされた。特に各小教区の信徒数については、前年度の報告数に転入・入信増数を加え、死亡・転出減数を減じて、正確に記入するよう要請が行われた。なお、信徒数は実際に毎週のミサの参加人数ではなく、信徒記録台帳上の数となっているので、勝手に変更して報告しないよう注意が促された。
- ・司教予定に追加の報告が行われた。

12/3 愛楽園教会公式訪問 10:00～

12/21 韓国の神学大学の教員研修会一行の表敬訪問とミサ 14:00～ 安里教会

12/24 クリスマス聖夜ミサ 19:30～ 開南教会

12/25 クリスマス日中ミサ 10:00～ 安里教会

12/27 青少年のクリスマスパーティー ミサ15:00～ 安里教会

12/28 聖年閉幕ミサ 15:00～ 名護教会

1/1 新年ミサ 9:30～ 開南教会

1/4 コザ教会公式訪問ミサ 15:00～

1/5 愛児幼稚園新園舎落成式 14:00～

※次回司祭助祭拡大会議は1月6日(火) 午前10時から、安里教区センターで開催される。

2025年12月15日 承認: ウェイン・バートン司教 記録: 新田 選

教区
NEWS
教会

司教様公式訪問 真栄原教会

11月23日の「王であるキリストの祝日」は真栄原教会の記念日に当たり、ウェイン司教様の公式訪問がありました。

記念ミサは、デニス神父様との共同司式で十時より捧げられました。司教様は説教の中で、当日の福音(ルカ23.35-43)に触れ、十字架上の大変な苦しみの中で、一緒に十字架にかけられた犯罪人を思うことができる方、

相手を常に優先して考えることのできる方であるイエス様の言葉に思いめぐらし、イエス様の心と触れ合いながら生活しましょう、とおっしゃいました。

ミサに引き続き、僅かな時間でしたが、語らいの場と食事会を持つことができました。

ウェイン司教様、これからも私達をお導きください。よろしくお願いいたします。(千村次生通信員)



聖年の年希望の巡礼 開南教会へ

泡瀬教会の信徒達は、ヨアキム神父様と共に開南教会へ聖年巡礼に出かけました。一行の乗ったバスの運転手はコザ教会の新垣さんが担当してくださり、道中では歌やクイズで和やかな雰囲気になっていました。開南教会は那覇教区司教座聖堂であり、1951(昭和26)年12月に2階建ての聖堂が建てられ、那覇教区のシンボルである「聖母の汚れなきみ心」にささげられた教会です。私たちは、平和巡礼ミサに与かった後、持ち寄ったお弁当を食べながら、信徒の交流を通して、お互いの分かち合いの時間を過ごすことができました。



戦争の絶えない世界情勢を顧みて互いに対話という交流を通して、お互い尊重し合う社会や世界となるよう祈る事で、平和の尊さを願う巡礼となりました。また12月28日には名護教会への巡礼も予定しています。聖年は特別免償が与えられる貴重な機会であり、皆が清らかな心で新年を迎えられるよう願っています。(渡慶次育)

第38回「県民クリスマス」

第38回「県民クリスマス」が、小禄カトリック教会を会場として開催されました。県民クリスマスは、県内のカトリックとプロテスタントの諸教会が協力して行うチャリティー行事で、今年の献金先は「ひめゆり平和祈念資料館」「一中戦没学徒資料室」でした。小禄教会が初めて会場に選ばれたことを受け、信徒たちは「せっかく来てくださるのだから、小禄教会らしいおもてなしを」と心を込めて準備を進めました。軽食や珈琲の提供、ウェルカムボードの設置、そして手作りのスノーマン人形など、迎え入れる喜びに満ちた工夫が生まれました。特にスノーマン人形は、ハンドメイドが得意な信徒が百個を仕上げ、その奉仕の心に多くの方が励まされました。当日は、実行委員長・上原榮正(沖縄聖公会主教)による開会の挨拶と祈祷で始まり、続いてカトリック教会の合唱団「カンタ・カトリカ」による賛美が捧げられました。その後、エブリン仲井真さんの独唱、ぐるくんアンサンブル(代表:清水良)によるバイオリン合奏が続き、豊かな音色が会衆の心を静かに潤しました。さらに、聖公会の「ダビデ会」、そしてバプテスト教会からセラの会・仲松あかりさん・アンサンブル・グラティアの皆さまによる合唱が披露され、教派を超えた賛美の響きが会場に広がりました。続いて、マキシム・デソーザ神父が説教を行い、力強いメッセージが参加者一人ひとりに深く届けられました。その後、会衆全員でヘンデル「メサイア」よりNo.44「ハレルヤ」を讃美し、会場は大きな一体感に包まれ、最後はマキシム神父による祈りをもって静かに締めくくられました。



プロテスタントとカトリックの信徒が、共に平和を創るために一致し、集まる機会を持つことは、新鮮であり喜びに満たされていきました。また小禄カトリック教会が愛の平和活動の盛り上げに貢献できたのでしたら幸いです。神に感謝。

(瀬底姿子・小禄教会)

韓国、ソウルの大神学校から教区訪問

ソウルの大神学校で働く司祭たちが那覇教区を訪問。
ウェイン司教、押川名誉司教
と共にミサを捧げた。



カリタス沖縄の活動報告

◆ 新年あけましておめでとうございます。

カリタス沖縄は、昨年11月30日、日頃のご協力に感謝をお伝えすると共に、カリタス沖縄の活動報告も兼ねてチャリティーコンサートを開催しました。聖年の祈り、ウェイン司教様のご挨拶に始まり、トゥーサム・聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会のシスター・与那原教会の信者の皆さん・フィリピン共同体・泡瀬の風バンド・ベトナム共同体・カンタカトリカの皆さんの素晴らしい歌声に会場内は感動に包まれていました。

ラストは「希望の巡礼者」を大合唱、押川司教様からメッセージと祝福をいただき幕を閉じました。待降節第一主日を皆と共に喜びのうちに迎えられたことは大きなお恵みでした。私たちカリタス沖縄は、カリタスジャパンの理念に基づき連携しながら独自のプログラムを作り、食糧支援、炊き出し、ビーチクリーン、クリスマス子ども支援等を行っています。小さな活動ではありますが、皆様のご理解とご協力があってこそ成り立っています。「カリタス」愛の行いを長く続けていけるようスタッフ一同、頑張っていますので、今後ともよろしくお願い致します。

新しい年が平和と恵みに満ちた年になりますように！！

カリタス沖縄委員会一同 崎山利香



国場児童館でクリスマス会

◆ 12月20日(土) 午後4時に那覇市立国場児童館で行われたクリスマス会に、子ども支援としてカリタス沖縄のメンバー4名、ロドニー神父、シスターレミ、シスターアイビー、シスターマリアの計8名で参加しました。当日はシスターが作ったカップケーキやスコーンなどのお菓子を準備しました。会場では50名程度の子どもたちが思い思いのコスチュームに身をまとい、カリタスメンバーが「諸人こぞりて」を歌う中、ロドニーサンタがホールに登場すると子どもたちは大歓声！

お菓子を嬉しそうに受け取っていました。「ジングルベル」を全員で楽しく歌った後はサンタを中心に写真撮影し、大人も子どもも思い出に残るクリスマス会となりました。





キリスト教一致祈禱週間

2026年1月18日 - 25日

からだは一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです (エフェソ4・4)

There is one body and one Spirit, just as you were called to the one hope of your calling (Ephesians 4:4)

2026年のキリスト教一致祈禱週間は、2026年1月18日～25日、全世界で行われます。今回のテーマは、「からだは一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです」(エフェソ4・4)です。

OCCキリスト教一致祈禱集会 日時：2026年1月18日(日) 午後3時～ 会場：日本聖公会ベッテルハイムホール(浦添市前田3-3-5)

司式：宇佐美節子牧師(日本キリスト教会宜野湾告白教会) 説教：島しづ子牧師(日本キリスト教団うふざと伝道所)

参加無料(席上献金あり)

1月 一日黙想会へのご案内

担当：セクウェーラ・ナビーン・ジョセフ
(普天間教会主任司祭)

テーマ：イエスは言われた

- ・日時 1月10日(土)
- ・会場 聖クララ修道院(与那原教会)
- ・受付 09:30
- ・講話 10:00～11:00
- ・休憩 11:00～11:15
- ・個人黙想 11:15～12:15 (ゆるしの秘跡：希望者)
- ・昼休み 12:15～13:00
- ・分かち合い 13:00～14:30 (各4班に分かれて行います)
- ・掃除 14:30～14:50 (会議室と食堂の清掃及び復旧、終わり次第、速やかに聖堂へ移動してください)
- ・ミサ 15:00～16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
問合せ先：098-945-2354 098-945-8649
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

心静かに、沈黙のうちに、
神と深く交わることができますように

那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口

☎098-863-2020

火・水・木

13:00～17:00



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

- *創業30数年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただきます。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂